



CAJLE Newsletter

Number. 60
June 2020

カナダ日本語教育振興会

Canadian Association for Japanese Language Education

目次

会長の言葉	1
CAJLE2020 オタワ年次大会	2
◆中止決定のお知らせ	
◆中止に伴うお知らせ	
特集記事	
「日本語教師の危機管理」	6
CAJLE 活動報告	9
◆継承語オンラインネットワーク	
◆全カナダ日本語弁論大会開催後記	
◆日本語教師情報交換会	
学校紹介	12
◆オタワ大学日本語プログラム	
◆トロント日加学園	
国際交流基金コーナー	13
CAJLE よりお知らせ	15
◆地域研修支援金について	
◆GN プロジェクト報告	
2019 年下半期活動報告	19
編集後記	20
会員規定	21

Editors: Mika Kimura (Chief), Izumi Adachi, Tomoko Bailey Ujie, Sawako Akai

Copyright©CAJLE 2020

会長の言葉 CAJLE 会長 青木恵子

あの日の教室は欠席が目立ち、「A 大学は休校」、「B 大学もたった今休校が決まった」と学生たちが噂するのを聞き、私も不安な気持ちでした。授業が終わった時、学長から一斉メールが届き、そこで全員が1週間の休校を知らされました。まだそれほど深刻には考えず、「休みはリラックスしようね」、「また再来週」などと挨拶して別れました。

その後の怒涛の状況はどれも同じでしょう。四六時中ニュースや学内メールで伝えられる状況変化と規定変更に合わせて、シラバスを変え、スケジュールを変え、LMS で課題やテストの作成と試行を繰り返し、その間にもあらゆるチャンネルでオンライン会議が開かれ、情報の整理に追われました。

学生には状況確認も兼ねて今どこにいて何をしているかメールを送ることを宿題としましたが、そのメールからは困難な状況が伝わってきました。寮の閉鎖で引っ越しを繰り返す学生、空港で帰国便を待つ学生、すでに帰国して隔離施設に入った学生…。時差もネット環境も一気にバラバラになり、対応を考えて私は途方に暮れました。でも、だれよりも大変なのはこの前例のない混乱を一人でぐり抜ける学生たちなのだ気づき、自分は今何をすべきなのか深く考えさせられました。

私たちの置かれた状況はいまだ先が見えません。8月に予定されていた年次大会は中止となり、招聘の先生方を始め皆様に多大なご迷惑をおかけしました。いつか必ずこの困難を乗り越えてまたオタワで開催したいと実行委員一同願っています。一方では3月には村上吉文先生に Zoom の使い方ワークショップを2度開催していただき、また全国日本語弁論大会は各団体のご尽力により初オンライン開催が実現しました。5月には JF トロントとの共催で第3回「継承語オンラインネットワーク」を実施いたしました。更には、夏の「オンライン実践共有会」の企画と、オンラインでの集まりを可能にする地域研修会を支援する体制が整いました。社会が普通の状態に戻るにはしばらく時間がかかりそうですが、知恵を出し合い、今できることを率先して行い、オンラインの強みを生かして広く皆さまとつながっていきたくと考えています。画面越しにお会いできる日を心待ちにしております。引き続きどうぞご自愛ご自衛ください。

「カナダ日本語教育振興会 オタワ年次大会 (CAJLE2020)」

中止決定のお知らせ

CAJLE2020 実行委員長 相津頼子

来る8月18日より3日にわたり開催予定であったCAJLE2020でございますが、世界中で新型コロナウイルスの感染が拡大し、非常事態宣言やロックダウンの処置がとられている状況を鑑み、大会実行委員会そして理事会と協議を重ねた結果、本大会の開催を中止することを正式に決定いたしました。本大会主催者を代表し、不測の事態の発生により大会中止を余儀なくされ皆様に多大なるご迷惑をお掛けしてしまいましたこと、心よりお詫び申し上げます。

世界各地でのコロナ災禍の早期終息、そして皆様のご多幸とご無事を心よりお祈り申し上げます。

Cancellation of "Annual Conference of Canadian Association for Japanese Language Education (CAJLE2020)"

Yoriko Aizu, Chair, Organizing Committee of CAJLE2020

CAJLE2020 which was scheduled to start on August 18th for three days is now cancelled after extensive discussions among members of the organizing committee as well as the board of directors, owing to the widespread transmission of COVID-19 in the world. On behalf of the organizers of the conference, we would like to sincerely apologize for any inconvenience that this may cause you, as the event had to be canceled due to an unexpected situation.

We hope you are safe and healthy and look forward to seeing you at CAJLE's next conference.

オタワ年次大会 (CAJLE2020) 中止に伴うお知らせ

● オンライン年次総会と理事改選

年次大会中止を受けて、8月に年次総会をオンラインにて開催いたします。また、今年度は理事改選があります。理事に加わってくださる方の自薦・他薦をお待ちしています。詳細は近日中に会員の皆さまにメールにてご案内いたします。

Online Annual General Meeting and Board Re-election

Following the cancellation of the Annual Conference, the Annual General Meeting will be held online in August. In addition, there will be a board re-election this year. We are looking forward to hearing your recommendations to join the board. Details will be sent to members by email soon.

● 中島和子先生より

大会の特別講演でお話しいただく予定だったトロント大学名誉教授、中島和子先生より CAJLE の会員の皆さまへ「カナダで育つバイリンガル・トライリンガル—家庭と地域で育てる継承日本語を土台に」そして「海外で育つ子どもの視点から見た日本語教育推進法の課題」のスライドをご用意いただける事となりました。日本語教育推進法の基本方針は今現在協議されており、興味をお持ちの方々も数多くいらっしゃる事と存じます。皆様が新たに学ぶ機会になれば幸いです。スライドの掲載方法や時期など詳細が決定しましたら改めてご案内させていただきます。

From Dr. Kazuko Nakajima

One of the invited lecturers to the conference, Professor Emeritus of the University of Toronto, Dr. Kazuko Nakajima, will provide us presentation slides of her planned lectures "Raising Bilinguals and Trilinguals in Canada, with Home/Community-Nurtured 'Heritage Japanese Language' as a Foundation" and "The Promotion of Japanese Language Education Act (2019): The Issues from the perspective of young heritage language learners growing up abroad." We hope these presentations will be a new learning opportunity for many of you. We will inform you once they are available.

● 夏のイベントのお知らせ

第1回 CAJLE オンライン共有会:カナダに広がる日本語

2020年8月15日(土)開催

話題提供者募集のお知らせ

日頃から行なっている、授業を楽しくするための、学習者のやる気を高めるための、そして、学習者の様々な学習目的に応えるための実践や工夫を共有しませんか。

CAJLE では、この度新たな取り組みとして、オンラインでの共有会を開催することになりました。この共有会では、リラックスした雰囲気の中で、地域や教育機関、対象年齢などを越えた実践共有の機会を提供すること、そして、カナダにおける日本語教育関係者の繋がりを深めることを目的としています。教室における実践だけではなく、家庭での継承語教育も含め、広く日本語教育について考えられる場を持ち、この広大なカナダにおける日本語教育をより一層、盛り上げて行きたいと考えています。

このような目的のもと、実践や経験などを共有して下さる方を広く募集いたします。

<資格>

- 特に問いませんが、カナダ国内で日本語教育に関わる方を優先いたします。
- 会員、非会員どちらでもご応募いただけます。

<内容>

- 教室または家庭で学習者の動機付けを高めたり、言語学習、習得を支えたりするための実践や工夫



<発表形態>

- 個人・グループ、どちらの応募も歓迎します。
- 発表はトピック等により構成したラウンドテーブルの形式で行います。各自 20～30 分ずつお話しいただいた後で質疑応答、意見交換を行います。詳細に関しては、話題提供者とご相談しながら進めますが、話し合いや質疑応答など「共有」を重視した時間設定をします。
- Zoom でのミーティングを予定しています。
- 共有会後にも発表資料や報告を広く共有する予定です。

<言語>

- 日本語、英語、もしくはフランス語

<参加費等>

- 特にありません。

<応募>

- 簡単に結構ですので、「こんなことを共有したい！」という内容を cajle.event@gmail.com までお知らせください。
- 締切:2020 年 6 月 30 日(火)

共有会では、話題提供者、参加者が自由に交流できる懇親会なども計画しています。会員、非会員を含め、日本語教育に関わる方、ご興味のある方に広く情報を提供していただけますと幸いです。

問い合わせ: cajle.event@gmail.com

オンライン共有会: <https://www.cajle.info/programs/sharing/>



THE FIRST CAJLE ONLINE GATHERING TO SHARE: JAPANESE LANGUAGE ACROSS CANADA

Date: August 15 (Sat), 2020

Call for presenters

Would you like to have a chance to share your educational practices and ideas to make your classes fun, motivate learners, and think about a wide range of learner's purpose of learning?

This summer, CAJLE will provide an opportunity to gather and share ideas online! This gathering is for those who are involved in Japanese language education, such as Japanese language educators, parents of Japanese heritage learners, school organizers, and others. The primary purpose is to build and expand a network among us in Canada beyond the differences of location, time, institution, and age group of learners we teach. We hope to

provide opportunities to discuss not only practices in the classroom but also about broad topics related to Japanese language education, from practice utilized in the classroom to issues related to learning Japanese as a heritage language at home. Making Japanese language education more active and lively in Canada is the goal for this gather-and-share event.

We invite presenters who can share their practices and experiences from every part of Canada.

<Requirement for Presenter>

- Welcome anyone related to Japanese language education. Presenters living in Canada are given priority.
- Both members and non-members of CAJLE are welcome.

<Topic>

- Practices and ideas that help motivate learners and support language teaching and learning in the classroom and at home.

<Presentation Format>

- Presentation by both individuals and groups are welcome.
- The presentation will be done in a roundtable format. Each roundtable discussion will be organized by topic. Each individual or group will be given 20-30 minutes to present, followed by discussion, exchange of ideas, and feedback. Details of the organization of the roundtable presentations will be discussed with presenters so that we can have enough time “sharing” with both presenters and participants.
- We will use Zoom for this gathering.
- We are planning to share widely the presentations and their resources after the meeting.

<Language>

- Japanese, English, or French

<Participation fee>

- No fee to present or participate in this gathering.

<Submission>

- Please contact cajle.event@google.com
- Deadline: June 30 (Tue), 2020



In this online gathering, we are planning to have an after-gathering get-together so that both presenters and participants can chat freely. We would like to extend this invitation to people in every part of Canada and beyond. We would appreciate it if you would forward this invitation to any Japanese language educators, parents, and school organizers you may know.

Contact: cajle.event@gmail.com

CAJLE Online Gathering to Share: <https://www.cajle.info/programs/sharing/>



特集記事 日本語教師の危機管理

2020年3月、新型コロナウイルスの感染が世界中に拡大する中、カナダでも学校の閉鎖や対面授業からオンライン授業への移行が行われました。突然のことに教師だけでなく学習者、保護者も当惑する中で、私たち日本語教師も試行錯誤しながら、日々この大変な状況に対応しています。

今回のニュースレターの特集記事はこの状況を踏まえ、「日本語教師の危機管理」と題しました。この状況が今後どうなるのか、まだまだ先は見えません。大学などでは、秋もオンライン授業になると聞こえてきていますが、2021年度には対面授業に戻れているかもしれません。その時、皆さんはどうしますか？ 何もなかったように以前の対面授業に戻りますか？ 今回の状況は私たち日本語教師に多くのことを学び、考える機会となりました。そこで、このニュースレターでは、私たち日本語教師がどのようにこの状況に対応し、何を考えたかを4月に行ったアンケートの回答からご紹介しながら、危機管理という側面からカナダの日本語教育について考えたいと思います。また、この4月まで国際交流基金トロント日本文化センターにて日本語上級専門家、またアルバータ教育省で日本語アドバイザーを勤められました村上先生からオンライン授業を行う先生方に役立つご提案をご寄稿いただきました。村上先生にはこれまでCAJLEの様々なイベント、大会にご協力いただきましたことをこのページを借りてお礼申し上げます。最後に、今の大変な時期にこの特集記事が少しでも皆さんのお役に立てば幸いです。—編集部

今こそ一人ひとりの学習者に向き合いましょう！

村上吉文

むらログ管理人 / 国際交流基金ニューデリー事務所所属 (2020年6月1日付)

前日本語上級専門家(国際交流基金トロント日本文化センター)、前日本語アドバイザー(アルバータ教育省)

CAJLEの皆さま

この原稿を書いている5月4日、僕は日本に帰国したばかりでまだ自主隔離期間があげず、東京のホテルにこもっております。カナダの在任中は非常にお世話になりました。本来でしたらお目にかかった上でお別れのご挨拶をしたいところだったのですが、今回はとても特殊な状況でしたので紙面でご挨拶をさせていただきます。

さて、このニュースレターが発行される6月1日に世界はどのようになっているでしょうか。もし平常に戻っていればいいのですが、オンライン授業が長期化していた場合、Google クラウドルームのようなLMSや、Zoomなどのテレビ会議システムに皆さんもそろそろ慣れてきた頃かもしれませんね。だとしたら、今までの対面式の授業の形式をオンラインでそのまま再現することに疑問をお持ちの方が増えている頃かもしれません。

そのような皆様のために僕は以下のように提案したいと思います。

1. 知識を伝える説明はライブではなく録画や文章で学習者に共有する。
2. Zoomなどのライブですることは以下の二つ。
 - 2.1 学習者同士のディスカッション。
 - 2.2 教師と学習者の一対一の個人面談。

つまり「一対多」のコミュニケーションはライブでする必要はなく、「多対多」か「一対一」のコミュニケーションのみにライブを使おうという提案です。

「多対多」のコミュニケーションに必要なツールは、Zoom の Breakout などです。人数が多いと結果的に「一対多」になってしまいがちですので、是非少人数に分かれたディスカッションを行うようにしましょう。

一方の「一対一」のコミュニケーションに必要なツールは、「オンライン予約システム」などと言われているものです。僕のオンラインコースに参加されていた方はご存じだと思いますが、僕自身も1対1の個人面談を必ずおこなっていました。最初はメールなどで予定を確認していたのですが、これは非常に非効率なので、やはりオンラインの予約システムを使うことを強くお勧めします。僕自身が最近使っているのは「CALENDLY」というものですが、それ以外にも「online scheduling software」などで検索してみると、とても多くのものが見つかります。

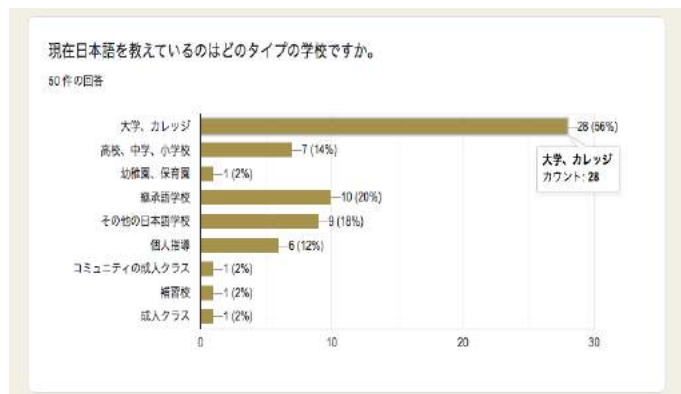
教育のある部分は機械やアプリなどで置き換えることができます。しかし、機械やアプリでは置き換えることができないこともあります。人間の教師に必要とされているのは、一人ひとりの学習者に真摯に向き合うことではないでしょうか。

カナダの日本語教育事情アンケートからのご報告

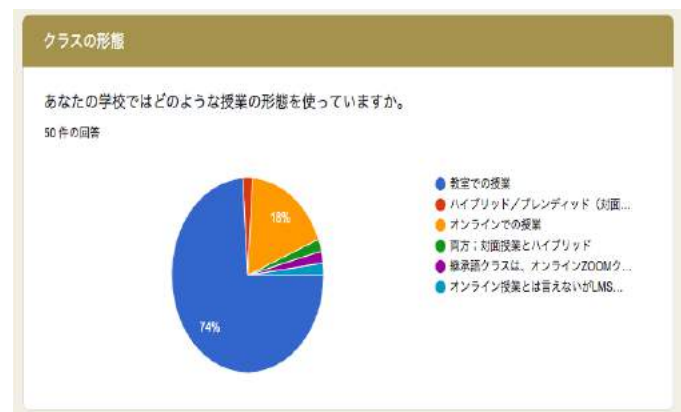
CAJLE 広報ニュースレター編集部より

このニュースレターを準備するにあたり、カナダ在住の日本語教師の方々にアンケートをお願いし、50名の方から回答をいただきました。アンケートにご参加いただきました先生方に心よりお礼申し上げます。今回はみなさまのアンケートの回答から特に新型コロナ感染拡大後の授業形態の変更への対応に焦点を当てて、ご紹介いたします。

アンケートの回答から感じられたのは準備時間が少ない中、最適の授業を学習者のために行おうとしている先生方の積極的な姿勢でした。普段使用している LMS、PPT などに加えて、新しいオンラインツール、Zoom 等の使用方法や有効的な使い方を学び、日々成長しようとしているカナダの日本語教師の姿が表れる結果となりました。

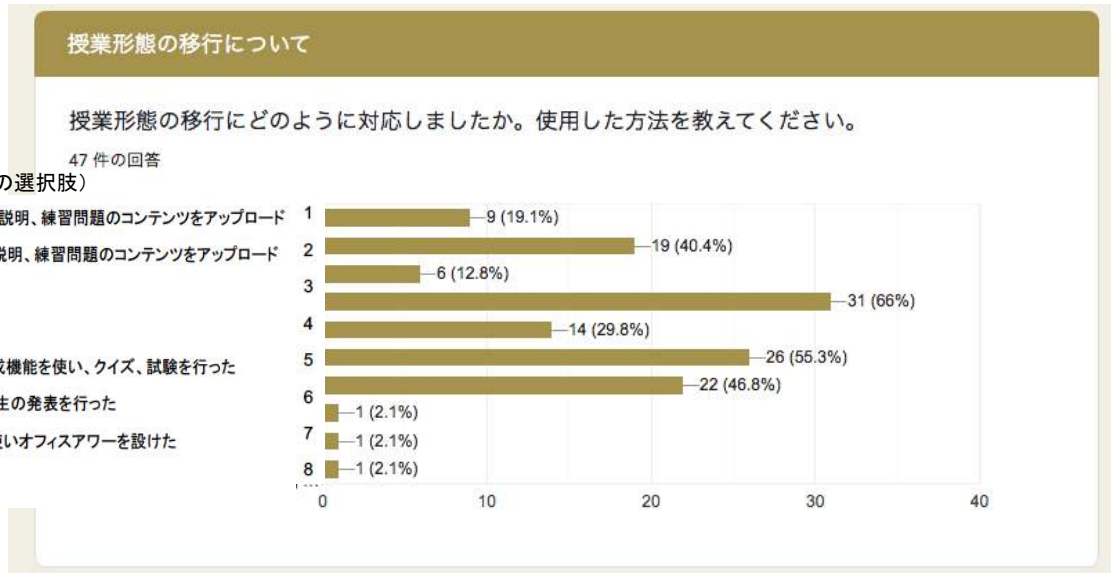


まずアンケートに回答くださった先生方については、所属は大学・カレッジが半数近く(28名)を占め、続いて継承語学校(10名)、その他の日本語学校(9名)、小・中・高校(7名)、個人指導(6名)、幼稚園・保育園、成人クラス、補習校、コミュニティの成人クラス(各1名ずつ)と続きます。(この質問では複数の回答ができますので、回答数が参加者数を超えています。)



今回のアンケートでは回答者の50名の内、47名の先生方が所属する学校でオンラインへ移行しています。しかし、新型コロナウイルス感染拡大前の授業形態を見ると、すでにオンライン授業を行っている9名の先生方、1名のハイブリッド/ブレンディッド的な授業を行っている先生、1名の両方と答えた先生を除いた先生方38名(対面+LMSの回答1名も含む)がこれまで対面式のみで授業を行っていたことがわかりました。(1名はオンライン移行後の回答でしたので含めていません。)

オンラインに移行後の授業形態についてですが、このアンケートでは同期、非同期の割合はわかりませんが、下の図からもわかるように学校から LMS が提供されている場合はそれを活用し Word や PPT(音声付きも含む)で文法説明や練習問題を共有したり、実際に授業を録画し、その動画を共有したりしています。また、Zoom 等のオンライン会議のツールを使って、オンライン授業を行っている先生方もいます。突然の移行に当惑している学習者のことを考えて、チャットやメール、電話などを使い学習者や保護者と密に連絡をとっているというも報告もありました。



今回準備時間が少なかった中、先生方がオンライン授業を行うにあたって、特に有効だったと感じている点は大きく分けると以下の三つにまとめられました。

- ワークショップやウェビナーでの実践報告への参加
- 新しいオンラインツールの学びやこれまで使っていた LMS の新しい機能の発見
- 他の教師との情報や意見の交換など

有効だったと感じられるものの中で注目すべきな点は Zoom に関するもので、使用方法やその有効的な使い方を発見、また体験できたというご意見が多くありました。また、Zoom を使ったワークショップなどに参加することで、他の先生方と繋がることができ、アドバイスをもらえたり、自分の教え方を振り返る機会が持てたりしたことも強調されていました。このように実際に自分で Zoom を使い、その有効性が体感できたことが先生方にとって特に役立ったようです。

しかし、今回の準備時間の不足、日々変わっていく状況への対応の難しさなどから、オンライン授業を行うにあたって大変さや問題点も指摘されていました。

- 評価方法(試験の形式、試験方法と時間配分、試験のモニター)
- ネット環境(アクセスに個人差、家庭差がある)
- オンラインツールについて(国、機器類により使えるもの、使用方法が違う)
- ハードウェア(個人差、家庭差がある)
- 家庭学習の方法
- 学生との関係の構築
- 同期、非同期(時差等)
- 学生の反応や理解状況がわかりづらい

これまでカナダの日本語教育の現場では対面式の授業での教授法を中心に考えられてきたため、今回の新型コロナ感染拡大によるオンライン授業への移行は、私たち日本語教師にとって簡単なものではありませんでした。しかし、この状況は私たちに新しい教授法について考え、それを試みる機会を与えてくれることにもなりました。今オンライン授業を行いながら、多くの先生方が悩み、ウェビナー等で学んでいますが、この経験で得た知識や体験は今後対面式の授業に戻っても、これまで以上に幅広く多様性のある授業を行うのに役立つのではないのでしょうか。今回の特集記事は「危機管理」と題しましたが、このアンケートを通して、今私たちが続けている学びや試みこそが危機管理のために必要なことなのではないかと感じられます。オンライン授業、対面授業と分けるのではなく、両方の利点を普通の授業に取り込むことで突発的な事態に無理なく対応できるようになれるのかもしれませんが、さらに、今回のアンケートの結果は CAJLE でも回答者の方々が指摘していた問題点等について少しでも力になれるよう意見交換の場、ワークショップなどを提供し、先生同士の繋がりを深める必要性があることを示す結果となりました。

(注) CAJLE の広報では当初アンケートを作成し、日本語教授法についてみなさまにご意見をお聞きする予定でしたが、新型コロナ感染拡大の状況を鑑み、急遽「危機管理」に関する質問を設け、この号ではそちらについてみなさんと情報を共有しております。教授法については次号にてまたお知らせいたしますので、ご了承ください。- 編集部

— CAJLE 活動報告 —

CAJLE より継承語オンラインネットワーク、全カナダ日本語弁論大会、「継続」シリーズ、三つの活動をご報告します。

- 編集部

第二回、第三回継承語オンラインネットワーク報告

カナダ在住の、継承語としての日本語教育に関わっている教師、保護者、運営者、研究者を対象とした集まり「継承語オンラインネットワーク」は、JF トロントとの共催で昨年 2019 年 6 月 20 日に第一回を Zoom にて開催し、その後 2019 年 12 月 17 日に第二回、そして 2020 年 5 月 14 日に第三回を行いました。

第二回は、JALTA 日本語教育振興会が 1990 年代に作成したカナダ向け継承日本語教科書「日本語」について、バンクーバー日本語学校のベイリー氏江智子氏が詳しく紹介し、またその教科書を 7 年生まで使用したキングストン日本語教室の青木恵子氏が、学年ごとに実践例を報告しました。後半は参加者から寄せられたテーマごとに小グループに分かれ、ディスカッションを行いました。テーマは「1. 漢字学習、2. 音読・読書・読解、3. 日本語を使用しない・できていない学習者への対応、4. 学習者への動機づけ、5. 継承語教育に必要なこと」と多岐に渡り、それぞれのグループで各自の悩みを相談し、解決策やアイデアを交換しました。

第三回の集まりでは、ニューブランズウィック州モンクトン日本語センターの吉澤明子氏をお迎えし、学校の立ち上げから運営方法、授業の内容に関するお話を伺い、後半はオンラインへ移行しつつある継承語教育に関して「1. リモート授業の仕方、2. ロックダウンだからこそ家庭でできること、3. ネットでプレイグループ」というテーマで小グループに分かれ話し合いました。急遽直面することになったオンライン授業やバーチャルプレイグループの様子や、画面を隔てた生徒との関わり方、そして家庭で一日中子供と過ごす時間がある今だからこそできることなどについて、経験や実践のための情報を共有しました。

この継承語オンラインネットワークを通じ、カナダ各地の継承語教育に関わる皆様が、より広くつながっていけることを期待しております。

第 31 回全カナダ日本語弁論大会開催後記

CAJLE 全国弁論大会部門担当 金梨花 (ブリティッシュコロンビア大学)

2020年3月29日、全国大会組織委員会とCAJLEの共催により第31回全カナダ日本語弁論大会が開催されました。本大会はカナダ7地区大会の各カテゴリー第一位通過者合計27名がトロント市のThe Japan Foundation, Torontoよりお借りした会場に集まり行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりZoom/Youtubeを併用してのオンラインでの開催となりました。

それぞれの出場者が、自分と日本との関わり、将来への不安や自分の内面の葛藤、そしてカナダ・世界の多様性に満ちたこれからの社会のありかたなどを自分の経験に基づいて堂々と発表し、日本語学習者の日本、そして未知の世界への興味の深さや表現力の幅の広がりがよく見られた大会となりました。本大会のスピーチ集と結果はCAJLEのウェブページ上 (<https://www.cajle.info/programs/speech-contest/njsc/>) でご覧いただけます。オンラインの限られたスペースと時間の中ではありましたが、大会終了直後にはお互いを称えあう拍手が出場者から自然に沸き上がり、また大会後の出場者アンケートからも日本語を介してカナダ全国の学習者となつがり、経験を共有しあい、更に高い目標に向かうよい機会になったことがわかりました。

今回は特に状況が目まぐるしく変わる中での開催でしたが、出場者の熱意と努力、そしてそれに応えてくださったスポンサーの皆様、The Japan Foundation, Torontoの皆様のご理解とテクニカルサポート、カナダ各地の大学に在籍する全国大会組織委員のチームワーク、開催地実行委員会の先生方のご配慮とご尽力によってこのオンライン大会がスムーズに開催できたことを大変嬉しく、ありがたく思っております。地区大会を含め弁論大会に出場した全ての参加者の努力と成果を祝福し、ご指導下さった先生方、地区大会実行委員会の先生方、審査員の皆様、開催地実行委員長の国実久美子先生はじめ実行委員の先生方、在トロント日本国総領事館、そしてご支援くださったスポンサーの皆様に心よりお礼申し上げます。

出場者の皆さん(The Japan Foundation, Toronto 提供)



「継続」シリーズ活動報告

第五回 日本語教師情報交換会 in Vancouver: 「今、求められている会話力とその指導」

阿部ますみ(UBC/ブリティッシュコロンビア大学)

継続 BC 第五回目は、SFU/サイモンフレーザー大学の竹井尚子先生に、「今、求められる会話力について」というトピックで講師をお願いし、2019年12月1日にバンクーバー日本語学校に於いて開かれました。当日は、日本語学校、高校、大学より26名の方々にご参加いただくことができました。

まず、お話の前に、ウォームアップとして教師自らの語学(英語)学習の経験話し合い、学生ばかりではなく、教師の語学経験にも共通点が見つからないほど多様性のある事に気が付きました。そして、そこから「自分の経験を生かしているか」という視点で、改めて自分が教えている会話のクラスについての意見交換が始まりました。私は、こういう「気付き」や「違う角度からのものの見方」が情報交換会の大きなメリットではないかと思えます。

「グローバル化が加速している社会でコミュニケーションの方法に変化が見られている。そんな中、語学の学習者に求められる会話力とはどんなものなのか」ということに焦点を当て、前半では、AL (Audio Lingual) から CA (Communicative Approach)、そしてポスト CA への変遷に至る過程を、マルチリタラシズ、異文化間能力、複言語主義、トランスランゲージング等の考え方を踏まえて、ご説明いただきました。「何に基づき、何を、どのように教えてきたか」ということを振り返ることによって、「言葉と文法」から「コミュニケーション能力」への移行、そして今、グローバル化の中で「複数の言語と文化」の共存を念頭に、会話力を考えることが求められていることを強く感じました。続いて、竹井先生が実践しておられる会話力アップの指導内容を、そのゴールとしてのオーラルテストやプロジェクトをレベルごとに順を追ってご紹介いただきました。

初級前半 1 会話のキャッチボールを意識させて行うオーラルテスト

初級前半 2 ガイドブックプロジェクトによる口頭発表

初級後半 1 一分間スピーチの練習を経て、グループでの好きな映画の紹介

初級後半 2 三つのプロジェクト:「日本人の人物事典作り」、「日本人へのインタビュー」、「『Genki』の教科書の登場人物を使ったスキット作り」

後半は、伺ったお話を基にグループに分かれて、オーラルテストを実際に作ってみました。対象者を定め、タスク (can-do) を明確にし、評価方法 (rubric) を決め、テスト作りの流れを広い視野から絞り込むことができました。各グループから、異なるテスト形式が発表され、どんな会話力を育成しようとしているのかを考慮しながら、テストを作成する大切さについて話し合いました。

現在、感染症の拡大でグローバル化の「負の側面」が取り沙汰されてはいますが、新しい学習環境で、引き続き、「今、求められている会話力」への取り組みが必要だということを実感しています。教師一人ひとりにとって今後の授業における会話力を引き出す活動について学ぶ大変有意義な勉強会となりました。

— 学校紹介 —

今回の「学校紹介」は、今年度年次大会が開かれる予定でしたオタワがあるオンタリオ州から2校ご紹介いたします。まずオタワからはオタワ大学の日本語プログラム、そして、トロントにある日本語継承語学校「日加学園」です。- 編集部

オタワ大学日本語プログラム

Sufeng Xu (オタワ大学アジア研究プログラム、コーディネーター)

カナダの首都の中心部に位置するオタワ大学は、英語とフランス語のバイリンガルの公立研究大学です。この多文化な環境は、学生が外国語と文化を学ぶ上でユニークな機会を提供しています。文学部の下で、現代言語文学科は、スペイン語、ドイツ語、アラビア語、ロシア語、イタリア語、中国語、日本語、ポルトガル語、ケルト語、ポーランド語、イディッシュ語の幅広い言語を研究しています。2020 年秋から、当学科では、世界の言語と文化という新しい専攻を開設します。この専攻では、学科のすべての言語プログラムが参加できます。

2014 年には、中国または日本のいずれかに重点を置いたアジア研究の副専攻を発足しました。この副専攻の内、日本を選択した場合、合計 30 単位の履修が必要となります。必修科目の 15 単位は学生の日本語研修と日本文化の基本的な概要の習得を目的としています。残りの 15 単位は選択科目より、上級日本語、日本映画、その他アジア文化、文学、歴史、宗教、哲学、人類学、政治、開発などから自由に選ぶ事ができ、様々な分野のより深い理解にあてられます。

日本語クラスは日本語初級 I、II、中級 I、II、そして上級 I、II の全部で 6 クラスあります。初級日本語 I には 7 つのセクションがあり、近年では常に満席(1 セクション 35 人)となっています。また、日本文化入門のコースも開講する度に 100 人以上の学生が興味を持ち、授業に登録してくれています。また、2009 年には日本語学習者クラブ JELLO/AELJ (Japanese Enthusiasts Language Learning Organization/Association des enthousiastes de la langue japonaise) が発足されました。このクラブは、日本語学習者が集まって日本語の練習や学習をするための実りある場となっています。部員はもちろん、他の学生も参加できる様々な文化・教育活動を行っています。

Located within the heart of Canada's capital city, the University of Ottawa is an English-French bilingual public research university. The inherently multicultural environment offers unique opportunities for students to learn foreign languages and cultures. Under the Faculty of Arts, the Department of Modern Languages and Literatures encompasses the study of Spanish, German, Arabic, Russian, Italian, Chinese, Japanese, Portuguese, Celtic, Polish, and Yiddish. Starting from Fall 2020, the department offers a new Major in World Languages and Cultures, in which all the Department's language programs can participate.

In 2014, the department inaugurated a Minor in Asian Studies requiring an emphasis on either China or Japan. The Minor with a Japanese concentration requires a total of 30 credits of course work. The 15 compulsory credits are geared towards students' language training and acquiring a basic overview of Japanese culture. The 15 optional credits offer students additional training in Advanced Japanese, Japanese cinema, and other topics in Asian culture, literature, history, religion, philosophy, anthropology, politics, and development.

We offer 6 Japanese language courses at all three levels. The Elementary Japanese I course includes 7 sections which are always full (35 students per section) in recent years. The Introduction to Japanese Culture course also routinely attracts over a hundred students every time it is offered. It is also worth noting that JELLO/AELJ—Japanese Enthusiasts Language Learning Organization / Association des enthousiastes de la langue japonaise, the Japanese Student Club created in 2009, has become a fruitful site for Japanese language learners to gather together to practice and learn Japanese. The club organizes various cultural and educational activities that both members and other students can attend.

日本語継承学校 日加学園

理事及び事務長
武元昭儒

1978年に創立開園した日加学園は今年で創立42年を迎えます。「日加親善に貢献するカナダ市民を育てる」という創立以来のビジョンのもと、学園全体で環境や内容の更なる充実に取り組んでいます。

日本国内で使用されている教科書を使用し、満4歳から16歳までの12のレベルで構成されていますが、この他に日本の歴史・地理、また生け花・習字・剣道・空手・将棋(私自身が担当)といった日本文化や、更に日本語でのコンピュータ操作など豊富なプログラムも取り入れております。教室での学習だけではなく、生きた日本人社会に触れられるよう、パークセール、クリスマス発表会、話し方発表会、運動会など1年を通して楽しい行事を盛り込み、総合的な日本語教育を実践しております。

1996年から就任され現在も最前線で教育現場に立つ浜場真喜子校長を含む21名の教師(アシスタントは5名)が200名余りの生徒たちに毎週土曜日、日本語を教えています。

3年前の秋頃、僭越ながら校歌を作らせて頂きました。1番はこのカナダの春と夏を、2番は秋と冬をイメージして、日本語を習得する道は長く遠いけれど、全てに優しく思いやりをもち、夢は大きくもって必ず叶えていってほしい、また戦中戦後に全財産を奪われた先代の日系人の思いを今につなげ、そのアイデンティティと日系コミュニティーを維持して欲しいという願いを込めています。下記学校のウェブサイトからぜひ聴いていただければと思います。

<https://www.nikkagakuen.ca/>

日加学園校歌

作詞作曲: 武元 昭儒 編曲: 山下 真智子

高い空見上げ 夢をはせる
優しい風が 吹き抜ける
輝きながら 学ぶ日本語
新しい世界に 僕がいる
道は遠く 夢は大きく
叶えていこう 日加学園

赤い楓 散りゆきて
流れる雲 白い雪
いにしえの時 今に繋げて
明るい学び舎に 君がいる
道は遠く 夢は大きく
助け合おう 日加学園

国際交流基金コーナー

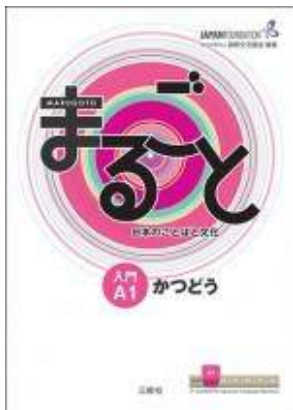
2020年度 国際交流基金トロント日本文化センター (JFT)

● 日本語教育ローカル・グラント・プログラムの申請開始のお知らせ

JFT 日本語教育ローカル・グラント・プログラムは、カナダにおける日本語教育の普及・発展に必要な様々な活動への支援を通して、カナダでの日本語教育を促進することを目的としています。詳細は、以下のサイトをご確認ください。

http://jftor.org/language/jl_grants/

● 日本語教育スタンダード準拠教材『まるごと 日本のことばと文化』の全ページ公開について



日本語教育スタンダード準拠教材『まるごと 日本のことばと文化』(略称『まるごと』)の「入門 A1」「初級 1A2」「初級 2A2」「初中級 A2/B1」を同教材の出版社(三修社)のサイトで 2020 年 6 月 30 日までの期間限定で全ページ公開しましたので、お知らせします。以下のサイトからアクセスできます。

https://www.marugoto.org/news/2020/#nw0406_1

国際交流基金では、『まるごと』関連ウェブサイトを二つ運営しています。「まるごとサイト」は音声ファイルや語彙のリストなど、『まるごと』本冊とっしょに使う教材を無料でダウンロードできます。また、「まるごと+(まるごとプラス)サイト」は『まるごと』の内容に沿って、日本語や日本文化が学べるサイトです。

まるごとサイト:<https://www.marugoto.org/>

まるごと+サイト:<https://marugotoweb.jp/en/>

まだ『まるごと』をご覧になったことがない方は、是非、この機会にサイトも併せてご確認ください。

● WEB 版「エリンが挑戦！ にほんごできます。」閉鎖と新サイト公開予定のお知らせ



WEB 版「エリンが挑戦！ にほんごできます。」は現在まで多くの方々にご利用いただき、誠にありがとうございます。同 WEB サイトは、Adobe 社による Flash 技術サポートが本年末に終了することから、2020 年 7 月 31 日をもちまして閉鎖することとなりました。閉鎖後も引き続き同 WEB サイトの動画を教室活動や学習にご活用いただけるよう新しく動画提供 WEB サイトを立ち上げ、2020 年 8 月 1 日より公開する予定です。詳細は以下をご確認ください。

<https://www.erin.ne.jp/jp/info/?fbclid=IwAR1OMjxmqrpgaNuULNRYZiXnRhyADQKW1tPYUBFCGN7Y1Lr0ilcuuLLWvVQ>



「JFT 日本語教師オンライン茶話会」のお知らせ

カナダの日本語の先生方が気軽に話し合うことのできる

「JFT 日本語教師オンライン茶話会」を始めました。

詳細は以下のサイトを御覧ください。

<http://jftor.org/language/teachers/online-training/>

— CAJLE よりお知らせ —

地域研修会支援金について

CAJLE では、2009 年より、トロント地域において「日本語学習を継続する」と称するシリーズのワークショップや講演会などを The Japan Foundation Toronto と協力して行なっています。

またオンタリオ部会、アトランティック部会に代わり、2014 年特に地域を限定せずにカナダ全土における活発な活動を目指す「CAJLE 地域研修会支援金」を設けています。これは会員による地域の日本語教育活性化につながる活動を支援するための助成金です。地域のニーズに応じた教師研修や、教師間のネットワーク作り促進のための事業を会員自ら企画し実施することを支援いたします。企画の実施まで、近隣の CAJLE 理事が連絡役、相談役を務めます。オンラインで集まる研修会・ネットワーキング企画も支援可能です。(2020 年 4 月～) 詳細は以下のウェブページをご覧ください。皆様からのお申し込みをお待ちしております。(広報担当)

<http://www.cajle.info/programs/regional-activities/>

REGIONAL WORKSHOP/MEETING SUPPORT FUND

Cooperating with the Japan Foundation Toronto, CAJLE has been offering workshops and seminars titles “Continuing Learning Japanese” in Toronto since 2009.

CAJLE also has replaced the Atlantice and Ontario Chapters to create the “CAJLE Regional Workshop/Meeting Support Fund”. This is to allow broad-ranged activities that will cover all of Canada and not to be limited to specific regions. This fund was created to assist in the regional growth of the Japanes language community through its members. It will enable members to plan and create their own instructor training, as well as instructor networks to better suit regional needs. Nearby CAJLE directors will serve liaisons and consultations. We can also support online workshops/networking meetings. (April 2020～) Please see the following webpage for more information. We look forward to receiving your application. (Public Relations)

<http://www.cajle.info/programs/regional-activities/>

グローバルネットワーク(GN)プロジェクト報告

日本語教育グローバルネットワークプロジェクト
カナダ日本語教育振興会 × ヨーロッパ日本語教師会

「セカイの日本語～みんなの声～」

私たちは日々の生活や実践において、「日本語」や「日本語話者」の中に存在する多様性をどのように理解し、向き合っているのでしょうか。

本プロジェクトの目的は、日本語によるコミュニケーションに関して、今まで「当たり前のこと」として捉えられてきた様々な価値観に対して疑問を投げかけ、日本語や日本語話者の多様性に対する意識を高めることにあります。一口に日本語話者と言っても、日本語母語話者から継承語としての日本語話者、そして、カナダを含む様々な地域、文化圏で日本語を学んでいる学習者など、さらには、その中の多様性を考えると決して一括りにすることはできません。



このような問題意識の下、私たちは「World Englishes」(Kachru, 1983)や「Translanguaging」(García and Wei, 2014)といった、絶対的な規範や標準に疑問を投げかけ、多様性や複数性、重層性に目を向けた概念を手がかりにプロジェクトを進めてきました。英語という言語の多様性、そして、その言語変種間に存在する不平等性を課題とした World Englishes に関する議論では、言語の正統性とは何か、そして、正統な日本語とは存在するのかといったことを考える必要性を、そして、多言語話者の「ことば」を包括的かつ動的に捉えることを目的とした Translanguaging に関する議論では、それぞれの日本語話者が持つ「ことば」を活用したコミュニケーションを後押ししていく必要性を確認することができました。

それでは、そのような言語や話者の多様性に対する認識はどのように深めることができるのでしょうか。私たちは特に日本語でのコミュニケーションに対する柔軟な理解を考える際、様々な日本語話者の存在、そして、それぞれに異なる経験について知り、自分自身が言語や話者に対して、どのように考えているのかに気づく機会が必要であると考えています。本プロジェクトではそのような機会に使えるリソースとして、様々な日本語話者にインタビューをし、日本語にまつわるストーリーを掲載したウェブサイトを作成しました。ウェブサイトでは、日本語学習者や継承語話者、日本語母語話者も含め、多様な日本語話者の経験、考え方に触れることができます。

また、本プロジェクトでは、このウェブサイトを使って、具体的にどのように多様性に対する意識を育むことができるかを考えるワークショップも行なってきました。ワークショップでは、単にストーリーを見たり、読んだりするだけではなく、それをもとに、自分たちの考えや経験について他者と話すことの重要性を感じました。また、そのような対話を広げていくことにより、社会において、日本語や日本語話者の多様性に対する柔軟な視点も広がっていくのではないかと考えています。

「セカイの日本語～みんなの声～」より

本プロジェクトで立ち上げたウェブサイト「セカイの日本語～みんなの声～」はどなたでも閲覧、使用することができます。

6月に新ウェブサイトへ移行し、さらに内容を充実させていく予定です。

<https://globalnetworkproject.wixsite.com/main>

プロジェクトやワークショップ等の詳細は CAJLE ウェブサイトに掲載してあります。

<https://www.cajle.info/programs/gn-project/>



その他、プロジェクトに関するご質問やご興味がおありの際は、是非ご連絡ください。

日本語教育グローバルネットワークプロジェクトチーム

米本和弘、柴田智子、川口真代、林寿子、津田麻美

cajle.project@gmail.com

セカイの日本語

日本語教育グローバルネットワークプロジェクト



カナダ日本語教育振興会

×ヨーロッパ日本語教師会

私たちはこれまで「日本語使用者」の多様性についてどれだけ意識してきたでしょうか

近年、日本社会における言語的・文化的多様性に対する理解の必要性が以前に増して認識されるようになってきました。これは今まで日本語教育において日本語や日本語使用者の中に存在する多様性に十分に目が向けられず、また、教育に広く反映されて来なかったことを見つめ直す機会となるのではないのでしょうか。

そのためには、日本語使用者が画一的なものであるという従来の意識から、日本語が様々な地域で学ぶ学習者も含めた多様な使用者の「言語活動」の一環であり、彼らの持つ「ことば」自体であるという理解を育成・促進していく必要があると考えています。本プロジェクトでは、そうした理解に基づいた議論や取り組みにつなげるための活動を行なっています。

多様な日本語使用者の「声」を聞き、お互いの理解について考えてみませんか？



みんなの声

プロジェクトの目標

- ❶ 日本語の多様性に対する意識の育成
- ❷ 個人としての多様な日本語使用者への理解促進
- ❸ 教室内外での理解を結ぶ実践的な活動の提案

これまでの取り組み

- ❶ 国内外の多様な日本語使用者とのインタビューの実施
- ❷ 多様な日本語使用者とのストーリーの共有、発信を目的としたウェブサイトの構築
- ❸ ストーリーを使用した多様性に対する理解促進のためのワークショップの実施

ウェブサイトの構成

- ❶ インタビューを再構成したストーリー
- ❷ 教育活動におけるストーリーの使用例
- ❸ プロジェクトの背景やコンセプトの解説

<http://bit.ly/GNProject>

*ウェブサイトはどなたでも閲覧、ご利用いただけます。

ただ聞く信用するのが大事です

日本のみなさん、恥ずかしがらないで!

私は「方言」マルチリンガル

21世紀はマルチリンガルが
当たり前になってほしい

自分から踏み出さなければいけない

プロジェクトへの参加、ワークショップの開催などにご興味がありましたら、ご連絡ください!
お問い合わせ: cajle.project@gmail.com
Twitter: @CAJLE_ACELJ

カナダ日本語教育振興会: 米本和弘・柴田智子・川口真代・津田麻美・林寿子
ヨーロッパ日本語教師会: 岩崎典子

本プロジェクトの一部はJSPS科研費16K21018及び公益財団法人博報堂教育財団による第14回児童教育実践についての研究助成を受けたものです。

CAJLE2019 年度下半期活動報告(2019 年 12 月～2020 年 5 月)

書記 白川理恵、安達いづみ

理事会担当報告及び承認事項

2019 年 12 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> ・広報部よりニュースレター59号発行 ・ウェブサイトに弁論地区大会の情報掲載 ・ウェブサイトにグローバルネットワーク(GN)プロジェクトのストーリーを掲載 ・会員ログインサイトに2019年の年次大会資料を掲載 ・継続 BC 第5回「今求められている会話力とその指導」於バンクーバー日本語学校 講師 竹井尚子先生(Simon Fraser University)
12 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> ・第6回オンライン理事会開催
12 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> ・継承語オンラインネットワーク 第2回ミーティング開催
12 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルネットワーク(GN)プロジェクト・ワークショップ実施 於 東京医科歯科大学
2020 年 2 月 12 日	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回オンライン理事会開催
2 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度年次大会の研究発表募集開始 (後に大会中止が決定)
3 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> ・CAJLE Zoom 体験講座(オンライン)開催 講師:村上吉文先生(国際交流基金・アルバータ州教育省)
3 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> ・American Association Teachers of Japanese(AATJ) 春の学会前日継承語国際フォーラム in Boston (オンライン開催)に、会長の青木氏がカナダ代表パネリストとして出席、AATJ 春の学会は COVID-19 のため中止
3 月 29 日	<ul style="list-style-type: none"> ・「第31回全カナダ日本語弁論大会」開催 オンラインで実施 共催:全国大会組織委員会、CAJLE
3 月 31 日	<ul style="list-style-type: none"> ・CAJLE オンラインワークショップ「ブレイクアウトの大冒険」開催 講師:村上吉文先生(国際交流基金・アルバータ州教育省)
4 月 8 日	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回オンライン理事会開催 2020年オタワ年次大会を中止することを決定
5 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> ・継承語オンラインネットワーク 第3回ミーティング開催

- ・ Online Japanese Accent Dictionary ワークショップ(3月8日、於トロント、講師:峯松信明先生(東京大学)、共催:国際交流基金トロント、CAJLE)は、COVID-19 のため中止となりました。
- ・ グローバルネットワーク(GN)ワークショップ(3月8日、於 静岡県、協力:岩崎典子生(南山大学))は、延期となりました。

CAJLE TWITTER フォローお願いします! @CAJLE_ACELJ



CAJLE のニュースだけでなく、日本語教育関連の情報も発信しています。

編集後記

◆ コロナ禍の中、日本語教師も様々な対応を迫られました。これまでにないチャレンジに対面しながらも、たくましく学び、日々頑張っている先生がたの姿が感じられる特集記事、カナダ日本語教師事情アンケートとなりました。今この苦しい状況の中から生まれている新しい繋がりや学びがこれからのカナダの日本語教育をどう変化させていくのか楽しみに感じられる号になったと思います。またチャレンジというと今回初めてこのニュースレターのチーフを担当させていただきました。いつも頼もしかった編集の先輩方が去られるということで、寂しくもあり不安に感じていることもありますが、どうぞ今後ともよろしく願いいたします。(島人@維多利亞)

◆ つい先日、初のオンライン授業を終えました。私自身、初めての試みに不安でいっぱいでしたが、学生達の日本語への情熱を前に、そんな不安も一気に吹き飛びました。この数か月、重苦しいニュースが続いていましたが、日本語を懸命に学ぶ学生達から、久々に元気もらった気がします。一日も早く、平穏な日々が戻ってきますように。(123@薩斯卡通)

◆ 中国の暦によれば今年は何年にも一度の変革の年だそうです。各種ウェビナー等で世界中の教師が”学びを止めない”を目標に日夜努力している様子が伝わってきます。一本の矢より三本の矢にするために、我々ができることは何なのか考えさせられる特集記事となった号です。(猫婦人@北晚香波)

◆ 私事ですが、今回を最後に編集部を卒業することになりました。ニュースレターは発行に至るまで、編集会議を経て、打診、入稿、校正、編集と細かい作業が続きます。見直すたびに出てくるフォントの見落とし。発行したあとに誤字脱字に気がついて、慌てて差し替えたことも一度ならず。毎回、無事に発行できたのも、執筆者の皆さん、編集部の同志のおかげです。新編集部も暖かく見守っていただけたら嬉しいです。(紅@倫敦)

CAJLE ニュースレター編集部ではコメントや日本語教育に関するご意見など皆様からの投稿を歓迎します。お気軽に編集部 CAJLE.PR@gmail.com までメールをお寄せ下さい。

CAJLE newsletter editorial board welcomes comments and opinions that address issues related to Japanese language education. Please email us at CAJLE.PR@gmail.com

カナダ日本語教育振興会
Canadian Association for Japanese Language Education
P. O. Box 75133
20 Bloor St. East Toronto, Ontario M4W 3T3 Canada
Web: <http://www.cajle.info/>

会員規定 - Membership

カナダ日本語教育振興会は、カナダにおける日本語教育の発展と向上を目指す非営利組織です。日本語教育に関心のある方ならどなたでも会員として登録することができます。

会員特典

- ・カナダの日本語教育情報満載のニュースレター(年2回発行)
- ・日本語教育関係の各種ご案内
- ・年次大会、勉強会、その他の催しの参加費割引
- ・CAJL ジャーナル CAJLE(査読付き)への投稿資格
- ・年次大会での研究発表資格
- ・The Canadian Association of Second Language Teachers (CASLT) 会員登録の割引適用:年会費 \$15 (通常\$45)

会費年度

毎年1月1日から12月31日まで。

会員の種類

一般会員(1年)	\$ 45 CAD
一般会員(3年)	\$ 120 CAD
学生会員(1年)	\$ 30 CAD
組織会員(1年、4名まで*)	\$ 120 CAD

*全員が同じ組織に所属していること。4名を超える場合、以降1名追加ごとに\$30お支払いいただきます。

CAJLEホームページのメンバーシップページ>About usより、オンラインにてお申し込みいただけます。小切手もしくは銀行振込によるお支払いをご希望される方は、会員申込書をご記入の上、メールまたは郵送でお送りください。申込書、お支払い方法についてはホームページをご覧ください。<http://www.jp.cajle.info/>

申込先:

Canadian Association for Japanese Language Education (CAJLE)
P.O. Box 75133, 20 Bloor St. East
Toronto, Ontario, M4W 3T3, CANADA

※連絡先の変更

住所およびメールアドレス等の変更があった場合にはこちらまでお知らせください。cajle.kaikei@gmail.com

CAJLE is a non-profit organization which actively promotes Japanese language education in Canada. We welcome everyone who is interested in Japanese language education.

CAJLE membership entitles you to:

CAJLE membership entitles you to:

- Receive the CAJLE Newsletter full of information about Japanese Language Education in Canada (two issues annually)
- Receive various announcements related to Japanese education via email.
- Attend the CAJLE annual conference, workshops and other related events at a reduced rate.
- Present research at the CAJLE annual conference
- Submit manuscripts for Journal CAJLE (peer-reviewed)
- Special rate for The Canadian Association of Second Language Teachers (CASLT) membership. (Affiliate Individual Membership is \$15, instead of Regular Individual Membership \$45)

Term of Membership:

The term of membership runs from January 1 of each year through December 31.

Membership Categories:

Regular Membership (1 year)	\$ 45 CAD
Regular Membership (3 years)	\$ 120 CAD
Student Membership (1 year)	\$ 30 CAD
Institutional Membership (1 year, Up to 4 members*)	\$ 120 CAD

*All members must belong to the same institution. If there are more than four members desiring membership, each can be added by paying \$30 for each additional person.

Please visit our website and open "Membership" page through "About us". Please fill out the online form and complete the payment procedure through paypal. For those who wish to pay by personal check or bank transfer, please fill out the application form (available on www.cajle.info) and mail or email it with the appropriate membership fee.

Mail to:

Canadian Association for Japanese Language Education (CAJLE)
P.O. Box 75133, 20 Bloor St. East
Toronto, Ontario, M4W 3T3, CANADA

Please notify us at the following email address if your contact information changes: cajle.kaikei@gmail.com